出題のねらい・解答例
〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学〔栄養科学部　栄養科学科〕

【小　論　文】

栄養科学部栄養科学科は、管理栄養士養成課程であり、栄養科学の広い領域を学ぶ理系の学科である。学校推薦型選抜では、自然科学に対する理解と、その状況を理論的な思考で把握し、言語化して伝達できる能力が求められる。小論文の出題においては、記憶された知識を問うだけでなく、提示された統計データなどから情報を正確に、また的確に読み取り、設問に応じて計算あるいは考察し、適切な表現で記述できることを問う形式になっている。

（その１）

〈出題のねらい〉

社会的な問題となっている高齢者の低栄養について、口腔状態（歯の残存本数）の視点から厚生労働省の国民健康・栄養調査による年齢階級別の20本以上の歯の保有状況（表１－１）と咀しゃくの状況（図１－１）、および咀しゃく状況別の低栄養傾向者の割合（図１－２）に関する資料を取り上げた。

設問１は、問いの文章に従い、表中の割合（パーセント）が正しく計算できるか評価した。

設問２は、年齢階級別にみた歯の残存本数と咀しゃくできる（なんでもかんで食べることができる）こととの関係性についての問題である。図表から年齢階級別の特徴を読み取った上で、定められた字数で的確に記述できたかどうかを評価した。

設問３は、高齢者の低栄養を予防する上でのポイントと対策方法について考察する問題である。まず、図から咀しゃく状況と低栄養の関係について適切に読み取り、その上でそれらの対策方法について歯の本数との関係性を含めて考察し、定められた字数で的確に記述できたかどうかを評価した。

〈模範解答例〉

設問１　（A）29.3（%）　（B）70.7（%）

設問２　年齢階級が上がるにつれ、20本以上の歯を有している者の割合が低下するとともに、何でもかんで食べることができる者の割合が低下する。(64字)

設問３　低栄養の者の割合は「何でもかんで食べることができる」者では少ないため、歯の本数を20本以上維持することが、高齢者の低栄養予防には大切だと考えられる。その対策として、適切な歯磨きや歯科健診、治療などの歯のケアを若い頃から行うことが役立つと考えられる。(124字)

（その２）

〈出題のねらい〉

二人以上の世帯の１世帯あたりの家計における食料への品目別支出金額と食料費全体に占める比率（表２－１）、および世帯構造の世帯総数に対する比率の推移（表２－２）を取り上げた。

設問１は、問いの文言を理解し、表を適切に読み取り、正しく計算できるかを判定した。

設問２は、たんぱく質の主な摂取源となる品目３つが表の品目のうち魚介類、肉類、乳卵類であることを判断した上で、それらの食料費に対する比率に焦点を当て、それぞれの値の年次推移について適切に説明できたかを評価した。加えて、誤字や脱字がなく定められた字数の範囲内で記述できているかどうかを評価した。

設問３は、内食、中食、外食の支出について、問いの文言や表の情報を正しく理解し、食料費に対する比率に着目して各々の年次推移を適切に説明できたかを評価した。次いでその動向の背景について、世帯構造の年次推移のデータを手掛かりに推察し、その理由を論理的に記述

できたかを評価した。加えて、誤字・脱字、文法上の誤りがなく、定められた字数で記述できたかについて評価した。

〈模範解答例〉

設問１　（A）36899（円）　（B）13.1（%）　（C）61.1（%）

設問２　魚介類への支出は、年々減少傾向である。一方で、肉類や乳卵類への支出は、ほぼ横ばいである。(44字)

設問３

（内食、中食、外食への各々の支出動向）内食への支出は年々減少傾向にあるが、一方、中食への支出は増加傾向にある。外食への支出は、それらと比較するとほぼ横ばいである。(62字)

（考えられる理由）共働きの世帯が増加してきており、調理に十分な時間を割くことができずに、中食を利用する世帯が増えてきていることが考えられる。また、高齢者２人暮らしが増加してきているため、２人分の調理が面倒な場合などに、手軽で外食ほど経費がかからない中食の利用が増えてきていると考えられる。(135字)